

国立病院機構 西新潟中央病院

— 地域とともに、日々とともに。「今」を伝えるもの語り —

Care + Nishinigiata Chuo Hospital 2022 March

かれん

vol.

04



国立病院機構 西新潟中央病院

〒950-2085 新潟県新潟市西区真砂1丁目14番1号 TEL.025-265-3171 FAX.025-231-2831

<https://nishinigiata.hosp.go.jp/>



special feature

□ 特集 □

新型コロナウイルス 感染症の最前線で

依然として収束が見通せず、長引く新型コロナウイルス感染症。国立病院機構 西新潟中央病院は新潟県指定の重点医療機関として多くの患者さんを受け入れ、入院治療に対応してきました。今号の「かれん」では、新型コロナと日々闘う呼吸器内科の統括診療部長と、患者さんのケアに専念してきた4病棟の副看護師長たちのインタビューを掲載します。患者さんの受け入れ開始から2年を迎えようとする今、いくつもの壁を乗り越えてきたスタッフたちが抱える思いはどのように変化してきたのか。その真意に迫ります。

Nishinigiata documentary
Start



かれん

vol.04

Care+Nishinigiata Chuo Hospital
2022 March

かれん(Care+N)とは、ケア(いたわる心)と、西新潟のNを組み合わせてできた名前です。優しさと親しみを込めて呼んでもらえるように。そんな思いから生まれました。



contents

□ 特集 □

新型コロナウイルス 感染症の最前線で

specialist interview

03

統括診療部長 桑原 克弘

05

4病棟 副看護師長 太田 奈穂

4病棟 副看護師長 矢尾板 聖美

07

連携する地域の医療機関をご紹介します。

大川クリニック

08

Care+N letters

[当院職員への新型コロナウイルスワクチン3回目接種が完了]

[もしもの時に備えるための災害訓練を実施]

[冬のエントランスや駐車場も安全・快適に]

[実はとっても大事な吸入薬、正しく吸入しましょう!]

09

information

message

今年1月以降、新型コロナ第6波のオミクロン株が急拡大しましたが、当院ではこれまでコロナ診療の経験を積んだエキスパートたちが、強い使命感のもとしっかりと対応してきました。表紙写真の8医師は、最前線でひたむきに戦ってきた呼吸器内科のメンバーです。桑原克弘統括診療部長を中心に、この2年間、新潟県庁からの新規コロナ患者さんの入院要請に応じてきました。県内の病院中でも屈指の受入数です。

懸命にその看護にあたったのが、石毛恵美子看護師長、太田奈穂・矢尾板聖美両副看護師長をはじめとする4病棟の看護師たちです。新潟の方々を新型ウイルスから守ろうと、チーム西新潟は頑張ってきました。

一日も早いコロナ収束に向け、引き続き責務を全うしていきたいと思えます。

国立病院機構 西新潟中央病院 病院長 大平 徹郎



□ 特集 □

新型コロナウイルス
感染症の最前線で

specialist interview

新型コロナウイルス感染症の重点医療機関であり、呼吸器診療に高い専門性を持つ医療機関としても長きにわたって地域に貢献してきた国立病院機構 西新潟中央病院。この2年間、コロナ診療の指揮をとり懸命に治療に当たってきた桑原医師に、感染症の専門医から見たコロナ医療、そしてこれまでの取り組みを振り返っていただきました。



interview 01

「当院が率先して
診なければ」
という覚悟と、
磐石な診療体制で
最善のケアを提供。

統括診療部長

くわばら かつひろ

桑原 克弘

Nishinigaata documentary

新型コロナウイルス発生当初、 どんな印象や認識をお持ちでしたか？

日本にウイルスが入る前から「これは来るだろうな」と覚悟を決めていました。過去の経験が参考にならないという意味でも、最初は誰もが恐怖心でいっぱいだったと思います。そんな中、横浜港クルーズ船での集団感染の診療援助に行く機会があったんですが、その時は患者さんが比較的元気だったことと、臨時で作られた病棟であったにもかかわらず医療スタッフの士気が高いのに驚き、当院でも対応できるはずと確信していました。私は感染症の専門医でもあるので、当院が率先して診なければという自負もありました。



実際に患者さんを受け入れ始めてから、診療体制はどう変わりましたか？

毎日カンファレンスを行い、早い段階で呼吸器内科の医師全員が同じレベルで診療できるまでになりました。看護スタッフや放射線科の習熟度も日に日に上がり、検査体制も大病院に負けないレベルになったと思います。しかし入院患者さんの中には、軽症から徐々に体調を崩していく方や、重症化して高次の病院へ搬送される例も出てしまいました。何とか食い止めようと、新たな治療薬や治療法の導入を積極的に行うようになりました。

いちばん大変だったのはいつ頃、どんな状況でしたか？

2021年の8月頃に感染者が急増し、当院でも人工呼吸器が必要な重症患者まで診ることになりました。その頃には我々も「やるしかない!」「来たら治すぞ!」という雰囲気。スタッフたちの尽力で、重症患者を含めほぼ高次搬送せず、当院の治療だけで改善させることができました。また、中規模病院の当院が県内3番目に並ぶ患者数を受け入れたことで、地域住民のみなさんや近隣の医療機関の安心にもつながったと思います。



新型コロナの治療に当たり、 どんな努力をされてきましたか？

新型コロナの最大の合併症は肺炎なので、呼吸器内科医の役割は重要です。個人の経験だけでは進歩は遅いと考え、県内の呼吸器内科医師たちと有効な治療法などの情報を積極的に発信し共有してきました。病院を超えた連携があったおかげで、結果的に県内の受け入れ医療機関全体がレベルアップしたと感じています。

コロナで学んだこと、また今後の心構えや思いをお聞かせください。

2009年に世界規模で流行した新型インフルエンザでも警戒感はすぐに薄れました。私たちはすぐに苦労を忘れますし、来るか来ないかわからない危機に備えることは難しいこと。今回の新型コロナでは、医療も安全保障・社会保障の観点から備えなければいけないということを改めて学びました。先の見えない不安もありますが、私たちは自分にできることを一つひとつやっていだけ。コロナが重症化せず、社会生活の支障にならない感染症に落ち着くよう願っています。

□ 特集 □

新型コロナウイルス
感染症の最前線で

specialist interview

新型コロナウイルス流行当初から県の重点医療機関に指定されていた当院。2021年からは中等症以上の患者さんも受け入れ、24時間体制で治療・看護に当たってきました。緊張感の続くなか奮闘し続ける4病棟の副看護師長おふたりに、現場でのお話を伺います。

新型コロナウイルス発生当初、
病院やスタッフはどんな雰囲気でしたか？

矢尾板：新潟で新型コロナウイルスの感染者が出始めたのは2020年の3月頃から。当院では4月から患者さんの受け入れが始まることになり、しっかり準備して臨みました。

太田：感染者数や重症者数、他の病院の状況などいろんな情報も随時入ってきて、緊張感が高まっていたね。

矢尾板：でも当時はまだ未知の感染症で、ワクチンや薬もなく、そんな状態で看護をするというのは私たちも初めて。何もかもが手探りでした。

太田：自分も感染するかもしれないし、自分を介して家族や周りにもうつすかも？ということも気になっていました。

矢尾板：確かに不安でしたね。患者さんへの対応はもちろん、働く私たちスタッフにとっても二次感染の不安なく業務につけるよう、備えなければと思っていました。

変異株の流行や感染拡大の波が続き、
スタッフの意識はどう変わっていききましたか？

矢尾板：最初は感染拡大を防ぐために、病棟の中でも一部のスタッフだけで看護に当たっていました。そのうち入院患者さんが増え、私たちも少し慣れてきた辺りから、病棟全体の看護師で見ることにしたんです。

太田：入院者数の一番のピークは2021年の夏。感染者数・重症者数が増加し、報道などでも深刻な事態が伝えられていましたが、その頃には新型コロナに対する理解が浸透してきていて、私たちもスキルを身につけてきたので、そう慌てることはなかったように思います。

矢尾板：クラスターを何回か経験するうちに、「私たちが新型コロナという感染症の専門的看護をしている」という看護師としての自覚が生まれてきたのは感じていましたね。

太田：しっかり対策を取っていればうつらないということもわかってきていましたよね。正しい対処をすることで自信につながっていったんだと思います。

これまでの看護で印象に残っていること、
やりがいを感じたのはどんなことですか？

太田：高齢者施設でのクラスターが発生して、一気に患者さんが増えた時のことはよく覚えています。食事や排泄の介助など密接に関わる患者さんが多かったので、スタッフも非常に慌たでした。あの時はみんな一丸となって頑張りましたね。

矢尾板：それぞれの力を発揮してチームで取り組み、院内すべての職員が協力してくれました。新型コロナという病気に対して、目指すところはみんな一緒なんだなということを強く感じました。

看護で特に工夫していること、
努力していることはありますか？

矢尾板：スタッフにはなるべくペアで動いてもらうようになっています。防護具を脱ぐ時も、1人だと感染のリスクが高ま

率先して動く、頼れる副看護師長たちに支えられています。

新型コロナウイルス感染症患者の受け入れの準備段階から、2人の副看護師長が先頭に立って急ピッチで進め、その後もスタッフの意見をよく聞いて、さまざまな変化にも対応しつつ業務を実践してくれています。厳しい時期を乗り越えたという自信も、今はあると思います。臨機応変さが求められる4病棟で、2人を中心に、私も含めたスタッフ全員、正しい判断を共有しながら対応していきたいと思っています。

4病棟 看護師長 石毛 恵美子 (いしげ えみこ)



るので。ペアナーシングを取り入れて積極的に声掛けしていることでも、全体の結束が強まったのではないのでしょうか。私は慢性呼吸器疾患看護認定看護師でもあるので、専門的な知識や最新の情報をなるべく集めて、今後の治療で予測されることをみんなに共有してもらうようにもしています。

太田：矢尾板副師長の伝達のおかげで、人工呼吸器を付けた患者さんの看護の仕方や、どんな状態になると呼吸器が必要になるかなどを学習することができています。



ほかにも問題点や改善点はみんなで頻りにカンファレンスしています。毎日が勉強会のつもりで話し合っています。

患者さんと接する際、
どんなことに気を付けていますか？

太田：看護における一番の難点は、防護具をフル装備で身に着けていること。夏は暑いし、フェイスシールドやグローブ越しではなかなか普段の感覚と同じようにはいきません。表情もあまり伝わらないので、患者さんと話す時はなるべく声のトーンを上げながら、安心感を伝えられるように努めています。

矢尾板：私も、しっかり顔が見えなくてもできるだけ目線を合わせるようにしています。あと、患者さんはご家族と直接面会できないので、リモートではありますが可能な限りお話していただく機会を作っています。

太田：今後の生活を心配されている患者さんも多く見受けられます。お一人おひとりに寄り添う思いでお話に耳を

傾け、少しでも力になればと思っています。

今後の新型コロナウイルスに対する注意点など、
読者のみなさんにメッセージをお願いします。

太田：ウイルスについての研究やワクチン接種が進んでいることで、病気に対する不安は少しずつ軽減してきていると思います。第6波も爆発的に増えましたが、感染経路自体は変わっていないので、過信せず、守るべき感染対策をしていただけるようお願いいたします。

矢尾板：第6波以降も、病院では最新のエビデンスに沿った体制作りや準備をしていきたいですね。手洗いやマスクなど基本的なことでは防げると言えば難しくないし、怖くありません。みなさんと徹底していただいて、重症化リスクの高い方に感染させないという意識を持っていただければと思います。

Interview 02
新型コロナウイルスと闘う看護師であるという
自覚と使命感で乗り越えてきました。

4病棟 副看護師長 矢尾板 聖美
(慢性呼吸器疾患看護認定看護師)

Interview 01
正しい知識と確かなスキルを味方に、
自信を持って業務に当たっています。

4病棟 副看護師長 太田 奈穂



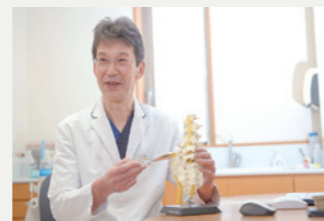
整形外科・眼科
大川クリニック



いきいきと
人生を楽しむために
健康な体づくりを

partner file 004

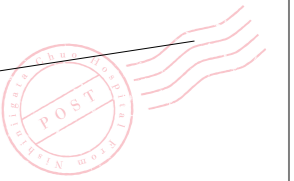
私たちは高齢の方がお元気で生活できる社会を願っています。整形外科では、ロコモティブシンドロームを回避すべく、普段から行える運動療法の指導に力を入れています。また眼科では、目が見えにくいこと自体が生活の質の低下につながることを考え、目の機能を維持していただくために病気の早期発見・早期治療に努めています。患者さんに向き合う医師として自ら元気でいたいと思います。2人とも体を動かすことを習慣にしています。ヨガやピラティス、ジョギングにウォーキング、ストレッチなど、将来いつまでも健康でいるために実践中です。ぜひみなさんもやってみませんか。



整形外科と眼科を併設しているため、両方を受診される方やご家族で来られる方が多いクリニックです。気になった時にいつでもお越しになれるよう、予約制ではありません。お気軽に立ち寄ってみてください。



整形外科・眼科
大川クリニック
院長 整形外科医師 大川 豊 先生
副院長 眼科医師 大川 真名子 先生
data
〒950-2015 新潟市西区西小針台2-1-36
TEL.025-234-5500
https://www.okawaclinic-seikeiganka.com



topics 01

当院職員への新型コロナウイルスワクチン3回目接種が完了

1月17日から、病院職員を対象にした新型コロナウイルスワクチンの3回目接種が順次行われました。今後もより一層の感染対策で、みなさんに安心して来院していただけるよう取り組んでまいります。



topics 02

もしもの時に備えるための災害訓練を実施



1月13日、災害訓練が行われました。「日本海沖を震源とする地震」が発生した想定で、患者さん、職員及び施設等の安全を守るための対応について学びました。今後も繰り返し訓練を行い、災害に備えます。

topics 03

冬のエントランスや駐車場も安全・快適に



寒波の影響で雪に見舞われた1月中旬、早朝から職員による構内除雪作業が行われました。玄関の車寄せの消雪パイプもフル稼働、急患搬送や車で来院される方に支障のないよう努めていきます。



一薬剤部より【実はとっても大事な吸入薬、正しく吸入しましょう!】

当院では気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患(COPD)の方に吸入薬が多く処方されています。吸入薬は、炎症を改善する薬や呼吸しやすくする薬が含まれ、症状を緩和する効果がある、とても大事なお薬。さまざまな種類があり使い方もそれぞれ異なるため、操作方法を覚えるのも大変かもしれませんが、しっかり吸入できていないと症状が悪化する恐れも。不安な点、分からない点は遠慮なく薬剤師や医療スタッフへご相談ください。吸入薬を使用しているみなさまの疑問点や不安な点を解消できるように、ホームページで吸入薬の種類と特徴について詳しく掲載中です。ぜひ、右のQRコードからご覧ください!

掲載記事はこちらから!



外来診療担当医表 [2022.3]

[受付時間]8:30~11:30 [休診日]土・日曜日・祝祭日

診療科		月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
呼吸器内科	午前 (予約制)	大平 徹郎	宮尾 浩美 (肺がん外来)	森山 寛史	宮尾 浩美 (肺がん外来)	松本 尚也 (肺がん外来)
		森山 寛史	桑原 克弘	松本 尚也 (肺がん化学療法)	桑原 克弘	木村 夕香
		木村 夕香	松山 菜穂	倉重 理絵	松山 菜穂	倉重 理絵
		松山 菜穂 (睡眠時無呼吸)		松山 菜穂 (睡眠時無呼吸)		
	午後 (予約制)		大平 徹郎 (睡眠時無呼吸) (再来のみ)		松山 菜穂 (禁煙外来)	
呼吸器外科	午前	(手術日)	渡辺 健寛	(手術日)	広野 達彦	渡辺 健寛
整形外科	午前	相場 秀太郎	藤澤 純一	藤澤 純一	(手術日)	榮森 景子
小児整形外科	午後 (予約制)	相場 秀太郎				榮森 景子
脳神経内科	午前	若杉 尚宏	高橋 哲哉	松原 奈絵	高橋 哲哉	長谷川 有香
	午後 (予約制)		黒羽 泰子			齋藤 奈つみ
機能脳神経外科	午前	福多 真史	(手術日)	福多 真史	増田 浩 (再来のみ)	(手術日)
		白水 洋史		伊藤 陽祐	白水 洋史 (再来のみ)	
てんかん科	午前 (予約制)		長谷川 直哉 (新患のみ)	長谷川 直哉 (再来のみ)	長谷川 直哉 (再来のみ)	長谷川 直哉 (再来のみ)
	午後 (予約制)				長谷川 直哉 (再来のみ)	
神経小児科	午前	三浦 雅樹 (再来のみ)	遠山 潤 (再来のみ)	遠山 潤 (再来のみ)	遠山 潤	小林 悠
		山田 慧 (再来のみ)	小林 悠 (再来のみ)		三浦 雅樹	放上 萌美
			森川 静 (再来のみ)			山田 慧
	午後 (予約制)		遠山 潤 (再来のみ)	放上 萌美	遠山 潤 (再来のみ)	
		森川 静 (予防接種)	森川 静 (予防接種)	放上 萌美 (予防接種)	山田 慧 (予防接種)	放上 萌美 (予防接種)
難病リハビリ	9:00~15:00	大学医	大学医	大学医	浦部 陽香	小林 彩夏
リハビリテーション科	第3金曜 午後					木村 慎二

外来受診について

外来診療は初診・再診を問わず、原則として予約制です。事前に予約をお取りください。

予約専用窓口 / TEL.025-265-2299

□翌日以降の予約(平日13:00~17:00) □当日の診療希望(平日9:00~11:00)

※予約なく紹介状をお持ちになりご来院されても、外来の状況で当日受診ができない場合があります。

【診療日程】

□初診・再診受付 / 8:30~11:30 ※救急の場合は、この限りではありません。

□休診日 / 土曜日・日曜日・祝祭日・年末年始

TEL.025-265-3171(代表)へお電話いただくと、自動音声でご案内しております。

交通のご案内

【バス】

A. 有明線

「国立西新潟中央病院前」
下車徒歩約2分

B. 坂井輪コミュニティバス

「国立西新潟中央病院前」
下車徒歩約2分

C. 西小針線(本数が多い)

「小針十字路」下車徒歩約10分

【JR】

越後線「小針駅」からタクシー3分

【車】

新潟バイパス「黒埼I.C.」から15分



epilogue



かれん

vol.04

Care+Mishinigiata Chuo Hospital
2022 March

〈発行人〉病院長 大平 徹郎 〈編集人〉香川 祐一朗 大関 聡 高橋 篤史

表紙の話

新型コロナウイルス感染症患者さんを全員が診られるよう、意思統一を図る呼吸器内科のドクターたち。後列左から 齋藤 暁 呼吸器科医師、松本尚也 呼吸器科医長、桑原克弘 統括診療部長、森山寛史 内科医長、前列左から 木村夕香 呼吸器科医師、松山菜穂 呼吸器科医師、宮尾浩美 呼吸器科医長、倉重理絵 呼吸器科医師。いつでも士気高く、使命感をもって臨んでいます。 撮影のためにマスクは外しています。